

るんびに

第九十一号 平成二十二年一月

楊林山 正光寺

住職 波多 正支

尼崎市東大物町1-3-7
(06) 6481-3253

光寿無量

新しい年があげました。新年のご挨拶を申し上げます。今年も元旦にご門徒の皆様とおつとめをさせていただきます。スタートです。

来年二十三年四月に親鸞聖人七五〇回大遠忌法要で正光寺は本山（西本願寺）に団体参拝いたします。教区などでお待ち受け法要がこれからたくさんございます。是非、ご参加下さいますようお願い致します。

「食事のことば」をご存知ですか？日常的にはご家庭でも「いただきます」「ごちそうさま」と言われていると思いますが、宗門では、このたび五〇年ぶりに新しく食事のことばを制定されました。従来の食事のことばを現代の感覚に合うように制定されました。

「食前のことば」

多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐられました。

深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

「食後のことば」

尊いおめぐみをいただき、ますます御恩報謝にとめます。

おかげで、ごちそうさまでした。

前住職は食事のとき常に手を合わせて「食事のことば」を言っていました。坊守が今日の夕食は手抜きをして決して美味しいものではないのに「・・・おかげでごちそうさまでした。」はと訝る様子をしていたのを思い出します。

私たちは、日々の食事に「いのち」をいただくことよってしか、私のいのちを永らえることが出来ないのです。私のところへ届けられるまでには、さまざまに思い量ることも出来ない大きなはたらきのあることにめざめ、感謝の心を表しています。その感謝の心を「ありがとう」という言葉だけでなく「ありがとう」という「生き方」をすることなのだと思えます。

初競りでマグロが一六百万以上の値段をつけたと買い手と食べる人のニュースが流れていましたが、人間中心の傲慢さを感じます。何十年も生きてきたマグロ、金子みすずの詩の「鯛の大漁だ。海では鯛のとむらいだ。」を思い出します。

保育園で昨年の夏、ゴーヤを育てた時のことです。子ども達が、「やっと大きく育ったのに食べるの？」と聞いてきました。子ども達が苗を植え、肥やしをやり花が咲いて実がなり、毎日水やりをして育てたのです。子ども達は、植物の一生にかかわったのです。

それぞれ植物や魚などの一生を口にしていく私が、その「いのち」に恥ずかしくない日々を送るといふことが大切なのだと思います。

定年を迎えた友人の年賀に、「余生をのんびりと暮らしています。」とありました。「余生」ではなく、「与生」です。決してあまりを生きるのではありません。自分に出来ることを、それぞれの立場で、精一杯、力いっぱい、いのちをかがやかせることが大切なのだと思います。

住職

（平成二十二年度年回表）

- 一周忌・・・平成二十一年亡
- 三回忌・・・平成二十年亡
- 七回忌・・・平成十六年亡
- 十三回忌・・・平成十年亡
- 十七回忌・・・平成六年亡
- 二十五回忌・・・昭和六十一年亡
- 三十三回忌・・・昭和五十三年亡
- 五十回忌・・・昭和三十六年亡
- 百回忌・・・明治四十四年亡

過去帳をお調べのうえ、ご法要はお早めにご連絡下さい。



元旦会のお参りのあとの記念写真

◆常例法座 一月十日（日） 午後二時～四時

◆ご講師 小林 顕英師

◆正信偈を学ぶ会

毎月第三土曜日 午後二時～三時三十分

年間の行事予定は裏面です。いのちがやかせ合える聴聞にたくさん出会しましょう。ご一緒にお参りしましょう。